

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	24-420	手稲溪仁会病院 白坂知彦 独立行政法人国立病院機久里浜医療センター松下幸生
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Multidimensional Personality Changes Following Psilocybin-Assisted Therapy in Patients With Alcohol Use Disorder: Results From a Double-Blind, Placebo-Controlled Clinical Trial アルコール使用障害患者におけるシロシビン補助療法後の多面的な性格変化：二重盲検プラセボ対照臨床試験の結果		
<b>執筆者</b>		
Broc A Pagni, Richard J Zeifman, Sarah E Mennenga, Brennan M Carrithers, Noam Goldway, Snehal Bhatt, Kelley C O'Donnell, Stephen Ross, Michael P Bogenschutz		
<b>掲載誌</b>		
Am J Psychiatry. 2025 Jan 1;182(1):114-125. doi: 10.1176/appi.ajp.20230887. DOI: 10.1176/appi.ajp.20230887		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール依存症、衝動性、性格、サイロシビン療法、幻覚剤		39741446
<p><b>要旨：</b></p> <p><b>目的：</b> シロシビン補助療法 (PAT) は、人格構造に永続的な変化をもたらすことが示唆されている。しかしながら、依存症におけるこのような変化は未だに特徴づけられていない。本稿では、ランダム化比較試験の二次解析として、アルコール使用障害 (AUD) 患者における PAT の人格特性への影響を検討した。PAT は AUD における人格異常を軽減し、特性衝動性の減少は飲酒量の減少と関連するという仮説が立てられた。</p> <p><b>方法：</b> AUD の成人 84 名を、シロシビン (N=44) または実薬プラセボ (ジフェンヒドラミン ; N=40) の 2 回の投薬セッションに無作為に割り付け、週 12 回の心理療法セッションを受け、さらに 24 週間の追跡調査を完了した。性格特性の変化 (36 週目とベースライン) は改訂版 NEO 性格検査を用いて評価し、日々のアルコール摂取量はタイムライン・フォローバックを用いて定量化した。</p> <p><b>結果：</b> プラセボ群と比較して、シロシビン群は神経症傾向の有意な減少と、外向性と開放性の増加を示した。二次解析では、神経症傾向の減少は抑うつ、衝動性、脆弱性の減少によってもたらされ、開放性の増加は感情と空想への開放性の増大によってもたらされたことが示された。全参加者において、衝動性の減少は治療後のアルコール摂取量の減少と関連しており、探索的解析の結果、これらの関連は、最初の投薬セッション前に中等度または高リスクの飲酒を継続していたシロシビン投与参加者において最も強く現れたことが明らかになった。</p> <p><b>結論：</b> PAT は永続的な性格変化を引き起こし、AUD における異常な性格特性の発現の正常化を示唆している。PAT が衝動性を軽減することで有益な効果を発揮するのか、それとも衝動的な個人が本質的に PAT に反応しやすいのかを明らかにするには、さらなる研究が必要である。</p>		